

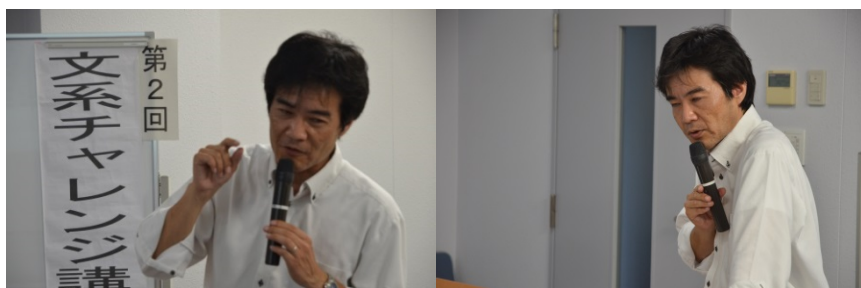
平成 28 年度第 2 回文系チャレンジ講座を実施しました

平成28年度第2回文系チャレンジ講座が、平成28年6月15日、「心理学への招待」をテーマとして、大分大学福祉健康科学部の溝口 剛先生によって行われました。福祉健康科学部は、今年度開設された新しい学部です。

遠隔配信された大分^{おぎのだい}雄城台・大分鶴崎・安心院^{あしむ}・日田・大分商業・高田・国東・別府青山 別府翔青・三重総合・臼杵・中津南・大分西の各高校12校(554名)と来学受講の佐伯豊南高校(1名)の高校生555名が受講しました。1回の講座の受講生数としては、過去最大の人数でした。

溝口先生は、講座の前に受講生に「心理学は、人間についての経験と行動の科学であるといわれます。その守備範囲は大変広く、認知・学習・発達・社会・教育・臨床・障がいなど多岐にわたります。今回は、心理学の守備範囲を概観し心の世界の不思議に迫ります」と、メッセージを送りました。

講座では、「心理学への招待」をテーマに溝口先生はわかりやすく丁寧^{ていねい}に講義をしていただきました。まず、「心とは何か？」目に見えない存在をどのようにすれば科学的に証明できるのか・・・から始まり、物理的な刺激量



と心理的な感覚量の関係を数式であらわした「ウェーバー＝フェヒナーの法則」や、大学に初めて心理学実験室を開いたヴントなど、心理学の歴史が簡単に紹介されました。また、錯覚の不思議による実験では、現実の世界と主観的な思い込みとが交錯

するところに私たちの認知が成立していることを知ることができました。私たちは図形のような単純な刺激でも現実をありのままには認識していないこと、まして人間関係のように刺激が複雑になればなるほど思い込みによって現実を歪めて認識している可能性があることを学びました。さらに、「心とは刺激と行動の連鎖である」とする立場から、望ましい行動が生じやすい刺激状況を用意することによって不適応行動を改善していく行動療法が紹介されました。これらの研究は、現代社会の病理を紐解いていく重要な示唆を与えてくれているように感じました。授業の終わりには、神経生理学者のフロイトが、ヒステリーを中心とした神経症患者の治療法を探究した末に精神分析学を創始したことや、これが現代につながる多様な心理療法・臨床心理学へと発展していった流れを知り、心理学を学ぶ重要さと奥の深さを感じることができた講座でした。



講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(99%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(99%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」(97%)という高い評価でした。

遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」(93%)、「映像はよく見えた」(86%)という結果がでました。受講生の具体的な声として「図表がわかりやすく、心理学にとっても興味を覚えた」、「教室で授業を受けているように感じた」、「参考文献を示してあり、読んでみようと思った」、「心の問題を科学的に見

ようとするところに感銘を受けた」など、ほとんどの受講生は心理学のおもしろさに強く引き込まれていたことがアンケートの集計から見えた授業でした。